慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	The life of the ancient east, by James Baikie
Sub Title	
Author	問崎, 萬里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1924
Jtitle	史学 Vol.3, No.1 (1924. 6) ,p.161(757)- 161(757)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19240600-0161

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

時代が複雑にして、その文化現象が幾多の要素を含むが故に、その研究もおのづから廣汎に亘らざるを得ない。理解力廣き著者は各方面に於ける諸學者の研究をよく咀嚼し、それを綜合統一して自己の創見にみちびき、豊麗なる筆致をもつて絢爛なる當時の文化相を再現してゐる。たゞごく些細なことではあるが著者が第八章第五節自意識に富める文學のところで、現世の執着を説く場合（本書六六三頁）に引用された歌二首を大伴家持の作とされてゐるが、これは明かに思ひちがひではなからうか、この歌はそのすぐ後に引用されてゐる多くの歌とともに大伴旅人の讃酒歌十三首（萬葉集第三巻）中の一部である。しかしかかる誤謬は決して本書の價値に關係あるものではない。吾々は本書をもつて史學界の好著として推稱し、同時に著者の異常な努力に敬意を表するのである。

（松本芳夫）

The Life of the Ancient East, by James Baikie New York, 1923. 8vo. XVI+464 pp.

最近世に於ける考古學的發掘と、古代文學の解讀とによつて史學の上に示された顯著なる進歩は、遂に西亞、埃及と多島海方面に於ける西人の所謂東邦古代史の書換を必要とするに至つた。忍耐強き不撓不屈なる人々の努力に俟つ考古學的踏査發掘事業の進展は、著大なる新發見の度毎に、專門學者と一般世人の注意を間歇的に是等地方に集中せしめつゝあつたが、一昨年の埃及に於けるツタンカアメン王陵墓の好運なる發見は、ロンドンタイムスの報道と共に、又もや、考古學的埃及熱を昂め、之に對應して、一日も早くその經過を發表せんとする學者の熱心と競營もこの間に見られたのである。ツタンカアメンについては大英博物館のバッヂも書いた。スミスも書いた。その發掘者なるターナーとメースの手によつても既にその第一巻は世に問はれた。古代東邦に關する舊書もこの年に夥多改訂せられ、新著も豊富に出でた。ケンブリッヂ古代史の第一巻の出版も偶然にもこの年に於てなされた。信頼し得る研究と著述とは、日を追つて續々出版せられるであらうが表題の本書も亦古代史に取つて多事なるこの年に出でたものである。

著者は發掘事業について一言したる後、埃及史の初をなす聖市アビドスに筆に起して、テル・エルナ、アマル、テーベの兩岸へと進み、凝視の的となれるツタンカアメンに言及し、更に轉じて初期バビロニヤに於ける典型的市邦ラガッシュ、法源としてのハンムラピ法典の發見、軍國主義のニネヴエを説き、傳説のトロイ、ギリシヤのミケネ、バイブルに由緒深きゲザー等の記述を以て終つて居る。本書には古代東邦に於ける『近代發掘のロマンス』で世評を得たるものは悉く收錄されてある。その權威は兎も角、近時發見の跡を縱覽せんとするには至つて便利である。（岡崎萬里）